

月別概況（平成30年）水産

1月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 874円

一般近海及び小釣物では、サワラ、サゴシ入荷安定、高値続く。タコ入荷安定保合。赤舌、ガン多く安値。赤甘、白甘ダイ入荷少なく高値保合。青物ではサバ類は県外からの入荷安定保合。ブリ日本海からの入荷安定していたが、値は下落。アジ類県内からの入荷安定保合。養殖物ではカンパチ安値安定。ハマチ、ブリ高値安定売り堅調。太物では、九州（長崎・福岡）で本ヨコ8kg～10kg物四国（高知）主体で2.5kg～3kg、8kg～10kg、各地潤沢に取れ九州物は1500～1800円、四国物は1800～2000円、ビンヨコ、かつをは各地少なく堅調だった。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 1,247円

中国産真タコ、岩タコ、原料が不漁でカットタコの値上げが続く。モロッコ産、真タコも毎日値上げになり地タコと変わらなくなっている。

加工水産物

1kg当たり平均単価 443円

和田島2月中旬迄休漁機関に入った。その為、ちりめん入荷なし。その他前売りも低調で大きな注文もなかった。

2月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 742円

近海及び小釣物では、タコ入荷減、安値続く。赤舌多く安値。サワラ、サゴシ入荷安定保合。アオリ入荷少なく高値続く。青物では、サバ県外からの入荷安定保合。サワラ類、入荷安定せず高値。ブリは先月に比べ値は、下落。養殖物では、カンパチ浜値、値上がりの動き売りは、堅調、ハマチ、ブリ高値安定売りは、堅調。太物では、本ヨコ長崎、高知より7-10Kサイズ1500-1800円売り。各地2-3kgの小さいサイズ少なく2000-2300円の売り。カツヲは、千葉勝浦で5K以上1000-1200円鹿児島で1-2kg350-600円で推移した。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 1,277円

ズワイガニは、年明け昨年末販売が好調であった量販店や通販筋から1月-2月販売追加注文が散見されました。気温の冷え込みも後押しして引き続き堅調な様相である。

加工水産物

1kg当たり平均単価 423円

今年は、イカナゴの漁があり値は、高値。チリメンは、少なく高値。

3月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 773円

一般近海及び小釣物では、タコ入荷少なく前半高値、後半500円値下がる。サワラ水揚げ減、釣り太

刀魚水揚げ安定、天候悪い日多く全体的に水揚げ少ない。青物では、サバ県外からの入荷安定値は、後半かなり下落した。平あじ入荷少なく値が高騰した。サワラサシゴ入荷安定せず値が高騰。ブリ高知からの入荷安定して保安。養殖物では、徳島県全体で低水温、赤潮等養殖魚に深刻な被害が出たが浜値安定、売り保安。太物では、高知より本ヨコ8K1500-1800円。ピンカツオは、全く水揚げなく鹿児島と千葉からの入荷に頼るがサイズ小さく大きなカツヲが少なかった。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 1,281円

バナメイエビは、搬入が安定しており相場弱含み、ブラックタイガーは、有頭、無頭共に搬入減少により値上げ傾向。

加工水産物

1kg当たり平均単価 406円

和田島のいかなご漁は、前半少しあったが後半は、全く漁が無かった。

ちりめんは、太平洋沖が少しあり値は、高値。

4月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 741円

一般近海及び小釣物では、タコ入荷少なくも前半保合。釣りサワラ 太刀魚 入荷安定保合。タイが多くヒラメ等の白身の相場が減 安値続く。青物では、サバ県外からの入荷安定、かなり下落することもあったが平均的には、保合。アジ高知、県内から大量入荷し値は、下落。ブリ入荷多くも保合。サワラ岡山、愛知からの入荷安定保合。養殖物では、上旬は、まだ赤潮の影響があったが売値は、堅調、浜値は、カンパチ若干上昇傾向になった。太物では、全国各地より中旬以降1.5kgサイズの小さいカツヲが大量に小揚げされ値崩れ起こす。ホンヨコビンヨコ少なくなり保合。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 1,019円

(鰻) シラスうなぎの大不漁を受けシラス価格も過去最高水準となる。加工品・製品価格にも波及し、今後の夏に向けてのうなぎ相場が懸念される。

加工水産物

1kg当たり平均単価 332円

和田島のチリメン漁は、まだで、椿泊は、漁があり値は、高い、高知と静岡で少しチリメン漁があった。

。

5月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 765円

一般近海及び小釣物では、鰹水揚げ少なく高値保合、タコ入荷安定、保合。チヌ入荷多く安値、スズキ前半安値保合、後半相場上がる。青物では、サバ県内外からの入荷安定しているが、買い気薄く値下落、ハマチ系入荷安定値も保合。養殖物では、カンパチ浜値上昇、売り堅調、ハマチ浜値、売り保合、ブリ在池少なく売り高値保合。

太物では、小マグロ（本ヨコ）が入荷ほぼなく四国沖でカツヲが沢山獲れ始める。そのカツヲの中にビンヨコがわずかに混じってるだけでセリ場はカツヲばかりで値段つかず暴落の日が続く期間があった。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 1,256円

モロッコ産タコ原料の高騰が止まらず、昨年輸入分より300円/kg値上げになっている。製品にすれば600円/kg値上げになる。銀サケ・紅サケの価格安定しているがサイズが大きくなり切り身での販売の歩留まりが悪い。

加工水産物

1kg当たり平均単価 371円

昨年に比べ今年は、ちりめん漁が多く値も高い。

6月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 753円

近海及び小釣物では鱧、水揚げ少なく高値。タコ入荷安定保合、マコカレイ高値安定、スズキ釣りは高値底曳きは安値保合。青物では、サバ入荷安定せず浜値上昇しかし買い気なし。アジは買い気あるが入荷少ない。サワラ系入荷安定せず高値。北海道からのイワシ入荷安定。養殖物ではカンパチ浜値安定売り保合、ハマチ浜値安定保合、ブリ浜値上昇売り弱い。太物では、四国各地カツヲの小揚げが多くセリ値暴落重ねてアニサキスの問題が話題になりより一層売れ行きが悪かった。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 414円

ロシア産ズワイは、本格的な搬入シーズンであるが中国、韓国向けの活需要が高く日本への搬入は限定的となっており、相場は高値で推移しており、このままでは高値横這いでの模様。

加工水産物

1kg当たり平均単価 260円

前半は、量が少しあり値も高く後半は、漁が無く値も高い。全国的に漁が少ない。煮干しも漁が少なくいつもより高い。

7月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 910円

一般近海及び小釣物では、鱧漁少なく前年に比べ高値保合、タコ入荷安定相場安定、釣りスズキ、イサキ高値保合、活マゴチ、マコカレイ高値続く。青物では、サバ入荷安定、県内外から多く入荷したが買い気なし、地元の釣り丸アジ入荷安定だが買い気なし、平アジ入荷安定せず少ないが買い気上々、ブリ、ハマチ県外から入荷安定しかし買い気なし。養殖物では、カンパチ浜値上がり気味、売りは堅調、ハマチ浜値相場安値、ブリ浜値売値ともに安定。太物では、小マグロが規制により入荷少なく高値、代わりにビンヨコも良品は、浜値が高い、カツヲは気仙沼からが主流。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 1,170円

カツオタタキの買い気は、上々。近海物生のタタキに一部の買受人は、流れるも全体的には販売数は増加。また近海で漁が始まった為南方の原料で下げ相場、売値は安定。

加工水産物

1kg当たり平均単価 396円

全国的にちりめん漁少なく前年に比べ高値。

香川の煮干も油が多く値は、高い。

8月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 944円

近海及び小釣物では、車エビ、マゴチ、マコガレイ、高値続く。高値入荷安定、保合。サワラ水揚げ多く安値。堂浦他鳴門方面釣り、イサキ、スズキ高値保合。青物では、サバ入荷安定サワラ、サシゴ入荷少なく浜値高上昇買い気上々、ブリ日本海からの入荷多いが買い気なし。盆終わってからサンマ出だし買い気上々入荷も安定。養殖物では、カンパチ浜値、売値高値維持、ハマチ全国的に在池数が少ない為上昇傾向、ブリ高値安定。太物では、本ヨコは、長崎、堺港気仙沼各地で小揚げあるも少なくブリ高値安定、高知ピンヨコも少なく高値安定。気仙沼のカツヲ安値安定高知少なく高値。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 1,004円

ブラックタイガー、バイナメ共に現地相場反転傾向。量販店向けアルゼンチン赤エビは、新物に変わり相場上昇。大きいサイズに関しては、搬入少なく大幅な値上げになっている。

加工水産物

1kg当たり平均単価 436円

チリメンは、先月に比べ漁が増え値も昨年より高い。

塩サンマは、漁があり値も昨年より少し安い。

9月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 835円

一般近海及び小釣物では、鱧入荷安定、相場前年並み保合。活平目ヒゲソリタイ、尺ハゲ類 水揚げ少なく高値。白甘、アサリ水揚げ少なく高値。サワラ、ポーゼ入荷安定。青物では、サンマ入荷安定保合。サバは、日本海からの入荷が安定しかし買い気なし。アジ愛媛から入荷で安定こちらも買い気なし。養殖物では、カンパチ売り鈍し堅調、ハマチ、ブリ、浜ね安定売り保合。太物では、青森からの定置釣り本ヨコ7K/8K 1,600円—1,800円。ピンヨコ高知産中心に3—5Kの大きいサイズが入荷多く安値。カツオは、気仙沼中心で2.5—3Kサイズ800—1,200円。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 986円

銀サケフィーレの原料が高騰している為フィーレ製品の値上げが止まらない。

10月に新物原料が搬入されるが、始めは高値が予想される。

紅サケも不漁の為昨年より製品単価が200円/Kアップしている。

加工水産物

1kg当たり平均単価 575円

チリメン漁は、昨年より多く値も高値で安定。

煮干と返りが昨年と比べて少なく値は、高い。

10月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 825円

一般近海及び小物釣りでは、アオリ、白甘タイ水揚げ少なく高値続く、平目入荷安定高値保合、鰹水揚げ続き安値、オコゼ入荷減高値、ワタリ入荷多く安値。青物では、サンマ入荷有り続けたが買い気なくかなりの下落、サバ入荷安定横ばい。サワラ、サゴシ日本海からの入荷安定しかし買い気なし。養殖物では、カンパチ売り堅調、濱値上昇傾向、ハマチ・ブリ浜値高値安定。。太物では、高知より本ヨコ2K物入荷始まり引き合い強くしっかりした相場だった。ビンヨコは、高知主体でカツオは、気仙沼の小揚が減り値は、上昇したままの値動きだった。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 940円

米国産新物アラスカ生タラバは、今期は、漁獲枠が昨年度35%減となり原料高騰は、避けられない状況です。年末商戦に向けて慎重な買付けと販売が必要です。

加工水産物

1kg当たり平均単価 436円

ちりめん漁は、昨年より多く値も昨年より高い。

煮干は、昨年より少なく値は、高い。

11月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 791円

近海及び小釣り物では、カワハギ、ウマヅラハギなどの入荷水揚げ少なく保合。トラフグ、クエ水揚げ少なく浜値だけ高い。サワラ入荷水揚げ安定保合。青物では、サバ青森からの入荷安定、値高く保合。アジ県内からの入荷安定しかし買い気なし。サゴシ県南から入荷多いが買い気なし。養殖物では、カンパチ在地少なく浜値上昇売り堅調。ハマチ、ブリ浜値売り保合。太物では、本ヨコは、長崎と鳥取島根の日本海側中心、四国は、高知中心全体的に月末になると小揚げ少なくなり、しっかりした相場。カツオも小揚げ少なく3K以上は、高値安定。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 913円

ホタテの引き合いが強く特に貝柱4Sサイズの入手が困難になっている。9月上旬より続いている値上げは、落ち着く。年明けよりボイルホタテ上げ相場K1500円程まで上がる見込み。

加工水産物

1kg当たり平均単価 451円

ちりめんは、昨年より少し多く値も高値安定。

煮干は、広島が少し漁があり値も昨年より高い。

数の子は、少なく昨年より高い。

12月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 971円

一般近海及び小釣物では、トラフグ水揚げ少ない分全国相場は前年より安値、タコ入荷安定保合、スズキ定置網底曳多く安値、アオリ入荷安定一部高値保合、白甘水揚げ前年の半分以下高値。青物ではサバ県内外からの入荷安定、値は、保合、アジ入荷安定せず値は、まちまち、サゴシ県内からの入荷かなり多い、先月に続き300-350円 ブリ日本海からの入荷増、値は、保合。養殖物では、カンパチ瀬戸内の在池少なく浜値上昇売り堅調、ハマチ・ブリ在池前年並み浜値安定売り堅調。太物では、本ヨコ長崎、高知中心浜値高く相対少ない、ビン、カツオは入荷かなり少ない。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 1,207円

ブラックタイガー、バナメイ共に相場安定。

加工水産物

1kg当たり平均単価 480円

数の子は、昨年より値は、少し高い。

サケは、少なく値は、高値。